

令和3年度

十三のまちの将来像に関する調査・研究

報 告 書
概 要 版

令和4年3月

総合調査設計株式会社

目 次

序章 事業概要	1
第1章 十三の現状把握	4
1-1. 項目別の現状把握	4
1-2. エリア別の特性把握	6
1-3. 関係者ヒアリングの実施	8
1-4. 有識者ヒアリングの実施	11
1-5. 現状のまとめ	13
第2章 参考事例の整理	16
第3章 十三の将来像の提案	17
3-1. コンセプト	17
3-2. 将来ビジョン	18
3-3. エリア・ゾーン戦略	27
3-4. アクションプラン	30
第4章 イベントの開催	31

序章 業務概要

1. 目的

十三地域は、指定に向けて検討が行われている新大阪駅周辺都市再生緊急整備地域に含まれており、旧淀川区役所の再開発や、淀川の船着き場の整備、鉄道新線の計画など、今後の街の発展に向けたポテンシャルが非常に高い地域であり、将来のあるべき姿に向けたブランディングが必要であり、そのためのまちの魅力の探索が求められている。

そこで、2020年度には、マーケティング・ブランディング分野の学識経験者を座長に研究会を組成し、交通・防災・景観・コミュニティ分野の有識者に十三のまちの魅力や課題を発見するための視点や論点等について意見や示唆をいただいた。

今年度はその結果を踏まえた調査を行い、都心近接エリアとしての阪急十三エリアのあり方について提言をとりまとめるとともに、十三のブランディングに向けた情報発信のためのイベントを実施する。

2. 業務内容

（１）過年度調査の整理

（２）十三エリアのポテンシャルの調査

- ①現地の状況把握
- ②関係者ヒアリング等
- ③国内外の類似事例調査

（３）有識者研究会の実施

（４）情報発信イベントの実施

（５）提言及び報告書のとりまとめ

3. 令和2年度成果の概要

令和2年度の調査・研究において、有識者のヒアリングや研究会で得られた意見やキーワードなどの整理を行った。

【十三のまちの将来像を考える上での重要な4つのポイント】

①広域連携

◆梅田と新大阪の間で受ける影響を考える必要性

- ・新大阪駅の発展と国際化の進展（24時間化、関空・伊丹との直結）
- ・梅田、新大阪との違い・独自性、位置づけの明確化
- ・防災系のハブやベンチャー集積などの新しい機能の可能性

◆公共交通網のハブとしての立地の活用と機能強化

- ・大阪、京都、神戸のハブ、ターミナル機能の強化
- ・3都のインフォメーション機能
- ・東西接続及び国道176号活用の強化 など

◆舟運（梅田・中津、都心・ベイエリア・淀川上流）

◆なにわ筋線の繋がり（十三と新今宮を文化で繋ぐ）

②大人文化

◆ターゲット（議論・設定）

◆下町・大衆文化

- ・ヒューマンスケールでごちゃ混ぜ感がある下町の雰囲気を残しながら、防災性能を高めたまちづくり
- ・お洒落でセンスがいい部分も取り込む
- ・アングラ的な要素に国際性や24時間化が付加して今後発展
- ・それらの文化の創造や路地の魅力等の発信
- ・1, 2階の低層部の屋外広告物などで十三らしい景観を新たに作る（地域で自主的にコントロール）

◆チャレンジできる文化

- ・いろいろな場所で何かが起きている
- ・チャレンジしたい人がビジョンを掴める
- ・学生が学び、チャレンジ、ちょっと背伸びできる
- ・それらを行政・商店街・地域が支援

③淀川の活用

◆素晴らしい梅田の眺望

- ・梅田側を眺める稀有な景観スポット・視点場の活用

◆舟運と船着き場の活用

- ・万博会場の夢洲、大阪城、道頓堀、USJ、淀川上流と直結
- ・十三と中津を結ぶ渡し船
- ・西淀川区の港との連携

◆河川敷などの空間活用

- ・淀川をランドスケープとして取り込むとともに、オープンスペースの活用や、水上及び空中交通及び新たな都市施設の設置に活用

- ・ドローンなどの空中利用サービス拠点や実験場所など
- ・線状管理から面的管理へ

④コミュニティ

◆多様性

- ・地域コミュニティ以外に商店街や若者等のつながり
- ・多様な人やコミュニティが交わり、化学反応が起きる街
- ・全然違う立場の人が出会うきっかけ作り（防災等をテーマに）
- ・LGBTの人が居やすい多様性
- ・一つのブランドイメージにまとまっていない方がコミュニティに入りやすく、コミュニティが育つ可能性が高まる。
- ・工業の活用（高度人材集積、ITとの連携など）

◆場づくり

- ・多様なコミュニティの分散化と緩やかなネットワーク
- ・人、モノ、出来事の見える化とプレイヤー等が出会う場
- ・参加しやすい場所、まちづくりができる居場所
- ・若者を入れるには、やりたいことを自由にやれる空気と横の繋がりが重要。世代の入れ替わりをどうするかも重要な課題。

◆地域マネジメント

- ・誰が、どういうコミュニティが主体になるかが重要なカギ。
- ・大資本が入りにくい仕組みや雰囲気を作れば、ジェントリフィケーションを防ぐことも可能。
- ・協議会の構築や地域貢献の審査基準
- ・十三に合ったエリアマネジメントの工夫

◆地域の再評価と再発見

- ・自分達の地域が外から評価されることで街が活性化
- ・地域の人達における地域の認知と参加

◆防災・減災

- ・地域の住民や労働者へアプローチし、危険箇所等のイメージを共有
- ・何かあった時に、淀川を渡ってくる人等も含めた安全確保
- ・垂直方向の避難場所の確保と情報共有
- ・防災面でのインフラの信頼性、安全な範囲などの見える化
- ・具体的な取組の一步としての模型づくりワークショップの実施

第1章 十三の現状把握

1-1 項目別の現状把握

十三地域について、項目ごとに現状の整理を行った。

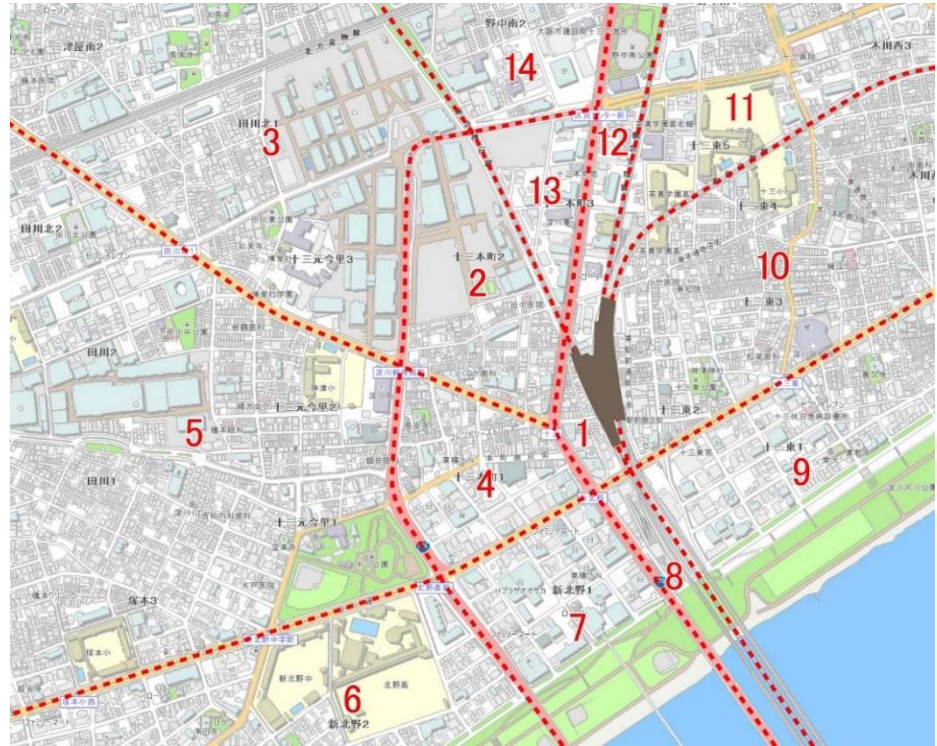
歴史	○旧街道（中国街道と能勢街道）が通っている。 ○十三の渡しがあった。 ○岡崎牧場があり、牧草地があった。
河川	○中島大水道があった。（十三バイパスの一部） ○曲がりくねった中津川から直線の新淀川へ掘削、付け替えが行われた。
交通	○国道176号、十三バイパス、淀川通、十三筋の幹線道路が通る。 ○阪急神戸線・宝塚線・京都線が通る交通結節点であり、将来、なにわ筋連絡線、新大阪連絡線が新たに通る。 ○十三駅の乗車人員はほぼ横ばい。 ○大阪シティバス、阪急バス、大阪バスが梅田や淀川右岸の各方面と結んでいる。 ○船着き場、淀川大堰の閘門を整備中であり、大阪・関西万博時には、万博会場の夢洲をはじめ、上流、下流、大川の各地域との舟運が可能になる。
公園	○主な公園として、淀川河川公園、十三公園、十三東公園、野中南公園（淀川区民まつりの会場）が立地。
都市計画	○駅近くは商業地域、その外側は住居系地域、駅北側に工業系地域が広がる。
土地利用	○駅近くは販売商業施設（飲食店、物販店等）が集積。 ○幹線道路沿いに企業、駅周辺の外側に住宅、駅北側に工場が立地。
開発計画	○元淀川区役所跡地の再開発。（区図書館、スーパー、マンション、専門学校） ○阪急電鉄上流部で、船着き場及び淀川河川敷の整備が実施中。 ○淀川大堰に閘門を整備中。（淀川上流と船での往来が可能になる） ○新たな鉄道路線（なにわ筋連絡線&新大阪連絡線）が将来整備される。 ○武田薬品工場の一部が開発される可能性あり。
景観	○淀川から梅田方面の眺望が素晴らしい。特に夜景。 ○下町風情が残る歓楽街の景観やネオン街。（スナック、ラブホテルなど）
人口	○十三駅周辺人口は微増傾向、高齢化率約22%。 ○外国人が増加。（淀川区の外国人は増加）
産業	○駅の東西に多くの商店街あり。十三発祥の有名店も複数立地。 （がんこ寿司総本店、喜八洲総本舗、ねぎ焼やまもと） ○駅北側に武田薬品の大規模工場が立地。駅から離れた北西部には工場が点在。 ○十三周辺を創業地として本社がある企業が複数立地。 （高松建設、ダイヘン、太陽工業等）
教育	○府内トップの進学校の北野高校が立地。高校は他に私立の英真学園が立地。 ○駅周辺には、公立の小中学校が2校ずつ、専門学校が1校立地。

文化	○アート、演劇、映画、音楽、食、酒（飲み）、祭り、建築など、大人の芸術や娯楽系をはじめとする多様な文化資源が多く立地。 （第七藝術劇場、シアターセブン、グランドサロン十三、ライブハウス GABU、劇団そとばこまち、木川劇場、宝湯など）
コミュニティ	○地域振興会や地域活動協議会等の住民による地縁型コミュニティ活動が盛ん。 ○アートや音楽をはじめとする文化による繋がりテーマ型コミュニティの活動が見られる。
防災	○十三地域は淀川の氾濫で3～5mの浸水が発生。 ○垂直避難が必要で、津波避難ビルが多く指定されているが、十三駅直近はややその密度が低い。
防犯	○市内の他の繁華街と比べて、軽犯罪の発生は少ない。 （難波、梅田、天王寺、京橋）
イベント	○なにわ淀川花火大会の会場。 ○神津神社での十三市や十三戎、淀川河川敷での淀川マルシェ、十三エリア一帯での十三アートフェスなどが行われている。
既存のイメージ	○住民と来街者のギャップが大きく、住民は便利・快適、住みやすい、来街者は歓楽街、汚いなどのイメージが強い。

1-2 エリア別の特性把握

十三駅地域を鉄道や幹線道路などの分断要素でエリアに分け、それぞれについて特性等の整理を行った。

<エリア分割図>



1	十三駅前西	= 十三駅の表玄関で雑然とした下町的な繁華街 = ○十三駅西口前で、繁華街を形成。十三の雑然としたイメージそのもののエリア。 ○アーケードのある商店街があり、酒を提供する飲食店が多く、物販等の店舗や、遊興施設、銀行等が立地。 ○しょんべん横丁、十三トミータウン、見返りトミー君、喜八洲総本舗がある。
2	十三駅北西	= 大規模工場と密集住宅地 = ○北半分は武田薬品工業の大規模工場。 ○南側の国道176号沿道の街区や十三筋沿道の一部には、飲食店等が立地、その北側は密集住宅地が広がる。
3	十三バイパス北西	= 大小工場の点在と密集住宅地 = ○十三バイパス沿線に武田薬品工業の大規模工場が立地、その西側は住宅と町工場が混在。 ○博愛社の教会と旧中国街道があり。
4	十三駅西	= 十三を代表する歓楽街 = ○典型的な十三のイメージを形成しているエリア。 ○縦横に複数の商店街があり、物販と飲食店、飲み屋、スナック等、販売商業系店舗が集積。(風俗店もあり)

		○地域の文化的な活動を担う施設が集積。 (ミニシアターやライブハウスなど) ○近年、シティホテルの建設が急増している。
5	十三バイパス西	= 生活色が強い住宅地 = ○日用品販売主体の十三元今里商店街と密集市街地を含む住宅地が広がる、生活色が強いエリア。 ○北西部にはダイヘンの本社があり、中小の工場が点在。 ○十三公園が立地。
6	十三バイパス西 リバーサイド	= 学校とリバーサイドの住宅地 = ○北野高校と新北野中学が立地。 ○整った街区で戸建て住宅と共同住宅が混在。
7	国道176号西 リバーサイド	= オフィスとラブホテル = ○淀川通及び十三筋沿道はオフィスが多いが、街区内にラブホテル街があるため、十三のイメージを形作るエリアの一つと言える。 ○現在の区図書館やプラザホテルオーサカが立地。
8	国道176号東 リバーサイド	= 駐輪場とオフィス = ○階層式駐輪場とオフィスと阪急電鉄の保線等の施設が立地。
9	阪急東 リバーサイド	= 新たな十三の顔と賑わい = ○元区役所の再開発で新図書館ができ、淀川河川敷と船着場整備もあり、新たな集客と賑わいが生まれ、大きくイメージが変わる。 ○一部にラブホテルもあるが、整った街区で共同住宅が多い。
10	十三駅前東	= 飲食店と密集住宅地 = ○駅近くは商店街があり、飲食店やパチンコ屋等の遊興施設が集積して雑然としている。その東側は密集市街地を含む戸建て中心の住宅地が広がっている。 ○区役所、神津神社、十三東公園があり、淀壁プロジェクトのウォールアートや木川劇場、宝湯が立地するなど、文化関連施設も多い。
11	十三駅北東	= 学校と住宅 = ○英真学園(高校と中学)と十三中学が立地し、周辺は共同住宅が多い。
12	十三駅北	= 細長い用途混在地 = ○ハローワーク、工場、専門学校、共同住宅が立地するなど、用途が混在。 ○老朽化した区民センターと区民まつり会場の野中南公園が立地。
13	十三駅北三角地	= 工場と事業所 = ○工場、企業系用途が多く、淀川警察署、阪急バスの営業所が立地。
14	十三バイパス北	= 工場と住宅 = ○工場の集積が見られ、その東側には戸建て住宅の街区と集合住宅の街区が立地。

1-3 関係者ヒアリングの実施

■各関係者ヒアリング一覧

	ヒアリング先	担当者	日時
1	淀川区役所 淀川区まちづくりセンター	淀川区役所市民協働課課長代理 山崎 様 淀川区役所政策企画課担当係長 大西 様 山本 様、波越 様 淀川区まちづくりセンター アドバイザー 宮脇 様	9/8(水)
2	NPO 法人 淀川アートネット	代表 牟田様	10/4(月)
3	阪急阪神不動産(株)	開発事業本部開発企画部副部長 藤村 様 開発事業本部開発推進部課長 山貫 様	10/4(月)
4	第七藝術劇場	代表取締役 松田 様	10/18(月)
5	グランドサロン十三	(有)大登 会長 宮田 様	12/3(金)
6	社会福祉法人 大阪市淀川区社会福祉協議会	事務局長 川東 様 生活支援コーディネーター 片島 様	12/8(水)
7	十三光スタジオ	BAKIBAKI 様	12/10(金)
8	神津地域女性会 十三地域女性会 田川地域女性会	会長 草積 様 会長 空 様 会長 西野 様	12/12(日)
9	淀川河川レンジャー	河川レンジャーアドバイザー 辻川 様	12/15(水)
10	太陽工業(株)	ブランド戦略推進部コーポレートコミュニケーション課長 上田 様	12/23(木)
11	ザ・淀川	編集長 乃美 様	2/10(木)

■得られた主な意見等

◆現状とポテンシャルについて

鉄道の利便性や淀川からの眺望の良さが強みという意見や、いろいろな人や個性的でユニークな人が多いという意見も多かった。

<主な意見の抜粋>

人・ コミュニティ	○十三は人と人との距離が近い。新住民と旧住民はあまり交わらない。 ○個性的でユニークな人、元気な人、十三が好きな人が多い。特に女性が元気。 ○淀川区は若い単身者が増えている。外国人が多い。 ○人情味があり、人の繋がりがある。 ○緩やかなネットワークでの連携が重要。 ○誰でも受け入れる懐の広さがある。最大のポテンシャルは多様性。 ○商店街が多く、店が人をつなぐ。小さな個店が多い。これらが繋がると強い。
暮らし	○住民から見れば住みやすいまち。 ○商業施設が欲しいと言うが、日常の買物等は特に困っていない。 ○十三は犯罪は意外と少ない。住民としては、それほど治安が悪いと思っていない。 ○5～10年前から家族連れでも住みやすい場所になってきた感あり。

文化	○十三の売りは、しょんべん横丁、ヴォーリズ建築の博愛社教会や昭和レトロなキャバレーなど特徴的な建築物がある。 ○十三はアートや作家が多い。 ○音楽、サブカルチャー、アート、映画などの表現の場がある。 ○十三という独特の読み方、知名度が高いことは非常によいアドバンテージ。 ○淀川で漁業が続けられている。淀川産、淀川八珍などの特産がある。
景観・イメージ	○繁華街のイメージが悪いが、看板や屋外広告も含めて、その風景ごと十三。 ○無料案内所やラブホテルがかなり減少し、健全な街になってきている。

◆課題について

現在の十三に不足している、必要と考えている要素について様々な意見が得られた。

<主な意見の抜粋>

人・コミュニティ	○人の入れ替わりが激しい。子育て層が市外へ流出する傾向が見られる。 ○多文化共生が重要。 ○商店街は地元客への商売だけで元気なので、外から客を呼ぶ意識が弱い。
足りないもの	○医療、保育園、託児所、本屋等。 ○緑・公園が少ない。大型商業施設がない。 ○文化的なことが不足。
自然	○淀川の自然はいろいろな生物が元気に生息している。淀川の自然を守るためにも、干潟の周辺でトイレと研修等を実施する部屋が必要。 ○河川敷整備は反対意見も多い。自然を壊すのはどうか。
魅力	○十三を降りたくなる駅にする面白い仕掛けが必要。十三は核になるものがない。 ○今の十三の駅前の雰囲気は残した方が良く。面白さを残す方策や仕掛けが必要。 ○十三の魅力や面白いもの・お店などをPRするプロモーションが重要。 ○今ある魅力を発信することが重要。
インフラ	○駅北の工業地域に新たな機能の開発をしていくには、駅からのアクセスの道路基盤整備が整っていないのが問題。 ○道路インフラが弱い。道路と鉄道で地域が分断されている。 ○十三は駅前にロータリーや駐輪場が必要で、歩きやすいまちにするべき。 ○淀川区は津波が来たら沈むし、内水氾濫に対しても弱い。垂直避難が必要。

◆取組・活動について

十三フェスなどの地域を巻き込んだ文化イベントや、淀壁プロジェクトをはじめ、福祉、文化などの様々な取組・活動が実際に行われており、また、これから始めようとしている取組も見られる。

<主な意見の抜粋>

福祉	○以下のような様々な取組が行われている。 ・100歳体操、ふれあい喫茶、食事サービス、子育てサロン、子ども食堂、集いの場マップ ・盆踊り、子どもキラキラ祭り ・0円食堂、食品ロスのおすそ分け など
----	---

1-4 有識者ヒアリングの実施

◆有識者ヒアリング一覧

	大学	氏名	1回目実施日	2回目実施日
1	京都市立芸術大学 美術学部 デザイン科(環境デザイン専攻)	藤本英子教授	11/29(月)	3/17(木)
2	関西大学総合情報学部 大学院総合情報学研究科	徳山美津恵教授	12/2(木)	3/14(月)
3	大阪市立大学大学院 工学研究科 都市系専攻 大阪市立大学都市防災教育研究センター	吉田長裕准教授	12/10(金)	3/3(木)
4	神戸大学大学院 工学研究科 建築学専攻 准教授 神戸大学減災デザインセンター	槻橋修准教授	12/27(月)	3/29(火)
5	近畿大学 建築学部 建築学科 地域マネジメント研究室	寺川政司准教授	12/28(火)	3/11(金)

■得られた主な意見等

有識者の先生方からはそれぞれの専門分野及びその他の様々な意見をいただいた。十三の魅力として淀川の活用に関する意見や、デジタルなどのキーワードをはじめ、新技術の活用に関する意見が多かった。

<主な意見の抜粋>

方向性 について	○1つの決まったこと、言葉にテーマを絞るのが良い。十三は「大人文化のまち」に絞ってはどうか。大人文化は十三らしさを伝えやすい。 ○大人文化に女性を加える。お洒落で憧れとなる大人の女性をサポートし、子育て世代も楽しめるようにする。 ○住んで欲しい人を打ち出す。子育て世代が出て行かないまち。地域の人情味あふれる人・まちが子供を育ててくれる。 ○行政計画ではない将来ビジョン・未来地図を作ってはどうか。新図書館に掲示して、毎年バージョンアップしてはどうか。 ○何かにチャレンジして、まちのストックを暫定利用でも短い周期で回す、アジャイル型のまちづくりが重要。その事業スキームと仕掛けが必要。十三でスタート・育ち、プロにメジャーに上がっていくような場所をめざす。 ○淀川の活用、まちや駅から川を意識できるようにすることが重要。 ○駅を降りた時に、例えば劇場ならその雰囲気が見えて、行く方向が分かるような駅前にする必要がある。駅前の改札を出た所は非常に重要。 ○十三駅を自由に降りられるようにすれば、結構降りてくれるのではないか。 ○災害時に住民以外はどこへ避難するのか、知っている状態にする必要あり。 ○多文化共生のまち。 ○活動や交流の拠点や場が必要。 ○駅北側の工業エリアは、緑豊かなまちにするなど、方向性を描いておく。 ○ソフト面でできることから実施していくことが重要。
-------------	---

淀川に関する 取組	○淀川からの夜景は絶景。夜景を売りにしたレストラン等のビュースポットの整備と光のコントロールが重要。 ○広いオープンスペースの活用 ・ドローンの発着拠点や開発拠点やデジタルイノベーションの実験場。 ・デジタルアートイベントや水上舞台や水上カフェ。 ○舟運の活用 ・枚方より更に上流との広域連携が重要であり、広域連携の拠点。 ・夜景を見ながらの屋形船等による遊覧。 ○駅から川へのアクセス整備が重要。淀川とまちが繋がっている感じが必要。 ○淀川の中で十三付近を「十三ゾーン」としてアイデンティティを待たせるようなシンボリックな整備。 ○河川の利用は、マネジメント組織で運営・コントロールしていくことが重要。
文化に関する 取組	○居住、発表、制作、交流、人材育成の好循環を十三で実現するためのエコシステムが必要。 ○「余韻都市」の重要性。イベント等に行く途中や、終わってから帰るまでの間に、ワクワクの雰囲気を感じたり、飲食をしたり、語り合うような余韻が重要。 ○最初のコンテンツとして、十三の小冊子はどうか。大人のまちを写真・イメージで表す。大人文化を感じる、説明するワードとイメージ写真で表現する。 ○大学のまち研究の実験場や下町的交流拠点。 ○十三駅北側は新都市開発が有り得るが、業務やビジネス拠点としてはどうか。エンタメ系のオフィスやビジネスであれば、相乗効果があるのではないかな。 ○十三用にカラーコーンやカッコイイモビリティをデザインしてはどうか。カラーコーディネートするだけで、雰囲気が変わる。 ○ラブホテルは異空間であり、様々な利用を認めることで、大人文化となる。
コミュニティ に関する取組	○コレクティブタウンのように、まちぐるみで様々な機能を提供し、まちを巡って楽しんでもらう。 ○まちづくり会社のようなものが必要ではないかな。 ○まちの資産向上という共通目的で、地域密着の不動産業との関わりは重要。 ○専門家と地域コミュニティが連携したレジリエントデザインのまちづくり。
連携に関する 取組み	○エリア全体を巡回できるようなルートがあると良い。 ○市内とのクロス、例えば新今宮、すぐ隣とのクロス、例えば梅田・中津もある。マクロのクロスとミクロのクロスがある。 ○伊丹と関空と繋がるので、調整宿泊の需要のコンテンツの充実が必要。
新技術等に関 する取組	○十三を紹介するポータルサイトが必要。 ○自動運転の宅配等の実験等、ロボットの活用はどうか。 ○無料 Wi-Fi エリアにする、電子マネーや地域通貨を活用。 ○街の中の移動として、新たなモビリティの導入。 ○使えるメディアは何でも使う。十三のメタバースを作る。

1-5 現状のまとめ

1. 十三の強み・魅力

現状把握やヒアリングなどから得られた情報を元に、十三の強み・魅力の整理を行った。

立地	○交通の利便性（鉄道）	○都心（梅田）に近い
淀川	○淀川が近い ○淀川花火大会	○淀川から梅田側を見る眺望が素晴らしい
賑わい	○十三駅を非常に多くの人が通っている ○コンパクトな範囲に多様な店舗が集積	○飲み屋・歓楽街 ○元気な商店街
風情	○下町情緒	
文化	○文化の盛り上がり	○グルメ
ひと	○人間味があふれ、個性的でユニークな人が多い ○大阪府立北野高校が立地	
暮らし	○住みやすい	
その他	○「十三」という地名	

2. 十三のポテンシャル

現状把握やヒアリングなどから得られた情報を元に、十三のポテンシャルの整理を行った。

○鉄道による結節

鉄道で物理的に梅田・神戸・京都・宝塚とつながっており、今後、関西空港・新大阪とも直結する。繋がっている地域への行きやすさと同時に各地から十三への呼び込みやすさが高いということであり、集客ポテンシャルは高い。

○淀川

素晴らしい眺望と夜景、河川敷の大空間、舟運や水面のアクティビティ、器用な自然など、多くの魅力を持った淀川は、うまく活用できれば、十三の魅力やイメージを変えるだけのポテンシャルを有している。

○多様性と受容性

多様な人やコミュニティ、文化が存在し、それらを受け入れる受容性を備えた地域であり、新しく何かを始めやすいポテンシャルを持った地域である。最近、建物等の壁一面に大きな壁画を描く「淀壁」プロジェクトが実施されている。

○下町情緒と歓楽街

下町情緒あふれるまちなみが残し、多様な飲食等が充実した市内でも有数の歓楽街が形成されるなど、魅力的なまちとしてのポテンシャルは高い。

○特色ある娯楽文化

昔から映画館やライブハウスなどが多く、現在もミニシアターの第七藝術劇場やイベントスペースとしても活用するシアターセブンがあり、ライブハウスもいくつか残っており、さらに大衆演劇の劇場もある。いずれもメジャーというよりは、個性的で特色ある文化を提供しており、関連する取組の盛り上がりや萌芽が見られる。

3. 十三の弱み・課題

現状把握やヒアリングなどから得られた情報を元に、十三の弱みや課題の整理を行った。

イメージアップ	○マイナスイメージの転換と情報発信 ○コアとなるシンボルとイメージの形成
淀川の活用	○魅力の核となるぐらいの十分な淀川の活用
移動・交通	○道路インフラの改善 ○東西移動をはじめとする地域移動の充実 ○駅の規模・格に相応しい駅の機能やデザインの強化
魅力向上	○駅から街へ人を呼び込む方策 ○下町的な情緒・文化・風景を残しつつのまちの発展及び新たな街の形成 ○まちの景観の保全と改善 ○みどりの確保
暮らし	○大型商業施設がない ○特色ある子育て環境と支援の充実
まちの構造	○まちの防災・減災性能の向上（レジリエントなまちづくり） ○まちの分断の解消
文化・産業	○工業の維持・発展・活用 ○遊休不動産の活用 ○スタートアップのまちへ

4. 十三で残すべき要素や梅田との違い

【 残すべき要素 】

今後のまちの開発や発展により、梅田と同じようなまちに、或いは、どこにでもある街にならないように、十三の特色として残していくべき要素を抽出した。

- 下町的な情緒・風景
- 人情味あふれるコミュニケーション
- 庶民的なまちとしての住みやすさ
- 淀川の自然
- 十三に根付くマイナーではあるが特色ある様々な文化
- 商店街や個店
- モノづくりの工場・技術

【 梅田との違い 】

今後のまちの発展の方向として、ビルが建ち並ぶ都会の中心地の梅田のようなまちをめざす

のではなく、近接するが故に、梅田とは違ったまちをめざすべきとの意見が多かった。めざすべき方向性として、梅田との違いについて整理を行った。

梅田		十三
高層ビルが立ち並ぶ、お洒落でよそ行きの街		中低層の建物が多く、下町情緒があふれ、庶民的で気楽な街
巨大スケール		ヒューマンスケール
非日常の買い回り品の商業の街		日常の最寄り品の商業の街
メジャーなアーティストによるカルチャーを大規模なパフォーマンスで享受する街	⇔	マイナーまたはメジャーデビュー前のアーティストによるカルチャーを身近に享受する街
繁華街が大きな広がりを見せる街		繁華街が駅周辺にコンパクトにまとまっている街
経験や実績を積んでから、行きつく街		気軽に何かを始められる街
人と人の距離が少しある、よそよそしいコミュニケーションの街		人と人の距離が近い、コミュニケーションが密な街
大型資本によるまちづくり		地域の住民・商業者・企業等によるまちづくり

第2章 参考事例の整理

有識者のヒアリング等で示された事例について、十三で参考とできるポイントを意識しながら、整理を行った。

■参考事例一覧

1	ポートランド	○アートの活用によりクリエイティブな街へと変わった ○人のつながりや交流を重視したまちづくり ○やりたいことを始める、地に足着いたスモールビジネスと豊かな暮らし
2	ブルックリン	○アートを活かしたまちづくり ○マイナスイメージから脱却
3	セーヌ川(パリ) テムズ川(ロンドン)	○河川沿川を再整備して都市の魅力を向上
4	ヤラ川(メルボルン)	○川沿いにボードウォークとバーを整備
5	中川運河(名古屋市)	○沿川の整備や河川空間を使ったデジタルアートイベントを実施
6	前橋アーバンデザイン	○官民協働で行政計画ではない将来像を作成し、共有してまちづくりを実施
7	豊田駅周辺まちづくり	○何かをやりたい人でまちづくりを実践
8	MAD City(松戸市)	○クリエイティブ層の誘致を目的に、地域密着でオリジナル物件を賃貸している
9	池袋駅周辺まちづくり	○規模は違うが駅の東西分断や雑然とした雰囲気、多様性など十三と似た点がある街の活性化 ○駅から街に出ない「駅袋」からの脱却 ○文化に着目してまちを活性化
10	北千住のまちづくり	○5つの大学を呼び込んで街を活性化、イメージアップ
11	東急池上線まつり	○ブランドづくりに向けて、居住地の枠を超えてコミュニティ化を図っている
12	小豆島カメラ	○外の目から見た日常の魅力を発見し、写真を使って情報発信
13	みんなの尼崎大学	○コミュニティカレッジの取組
14	SEKAI HOTEL	○地域資源を活かして“まちごと”楽しんでもらう宿泊業の取組
15	まちのコイン	○コミュニティ通貨のアプリを活用して「つながり」づくりを実施
16	ロッテルダム	○工場を再整備
17	産業遺産	○工場を活用・再発見する

第3章 十三の将来像の提案

3-1 コンセプト

◆プレイス・ブランディング

十三駅周辺は、特に外部の人からは「雑然とした歓楽街」「汚い」「危険」などのマイナスイメージで捉えられているため、イメージアップが必要である。

プレイス・ブランディングにおいては、十三という場所の意味づけが必要とされる。十三は、様々な人・モノ・コトが混在し、多様性の高さが見られるが、イメージアップを図るためには、多様な中から何か一つにポイントを絞って、売り込んでいく、イメージ付けを進めていくことが望ましい。

昨年度に十三の将来像を考える上でのポイントとして、多様な中から「広域連携」「大人文化」「淀川の活用」「コミュニティ」の4つのキーワードを抽出したところだが、十三を意味づけて行く上で、最もその特徴を表している「大人文化」に着目し、展開を図ることを提案する。

＝メインコンセプト＝

「おとな文化」のまち 十三

◆「おとな文化」のまちとしてブランディング

十三は、雑然とした庶民的な歓楽街のイメージが強いため、「おとな文化」というと飲み屋文化のようなものがイメージされるが、ここで言う「おとな文化」は決してそれだけのものではない。

仕事や趣味に繋がる芸術や食の世界など、好きなことを楽しく始められるまち、それを受け入れる寛容なまちとして、十三というエリアから様々なコンテンツが生まれるとともに発展を遂げ、関連する人が集まり、新たなイメージが共有されて広がっていくような展開が望まれる。

また、交通利便性、淀川の自然、様々な文化等の恩恵により、梅田のような都心に近接していながら、ワクワクする豊かな大人の暮らしを享受できる、十三ならではのライフスタイルが創造・構築・発信されることで、住む魅力の向上にも繋がる。

さらに、子どもの情操教育への好影響や、淀川の魅力を活かした子育て、親が楽しめる文化的な暮らしの提供などにより、流出が課題であった子育て層に対する魅力向上も図る。

飲み屋文化に代表される「昭和のおとな文化」から多様性・寛容性を備えた「令和のおとな文化」へとイメージの転換を図る。

＝おとな文化のキーワード＝

好きなことを楽しく始められる文化とそれを許容する文化

飲酒を介する飲食店や社交場の文化 モノづくりの文化

上質で余韻やゆとりを感じる文化 知的好奇心を満たしてくれる文化

つながりが新たな価値を生む文化 など

3-2 将来ビジョン

= めざすまちの方向性 =

◆まちづくりとしてめざす方向性「5つのC」

下町情緒あふれる、人間味のあるまちの要素を残しつつ、「おとな文化のまち」として古いものの継承・発展と新しいものの創造が進むまちづくりが求められる。

「おとな文化のまち」の実現に向けて、共有すべき将来ビジョンとして、これまでの議論等の内容を踏まえ、5つの「C」で始まるキーワードを挙げる。

Culture
カルチャー

Creative
クリエイティブ

Challenge
チャレンジ

Community
コミュニティ

Cross
クロス

カルチャー（**Culture**）が生まれ、育つまち

十三がこれまで培ってきた既存の様々な文化、これから芽吹こうとしている文化など、様々な文化が生まれ、発展するまちをめざす。それぞれの分野において、どちらかと言えばマスを対象とした文化というよりは、ややマイナーではあるが質が高い文化が生まれ、育つような路線が相応しいと考える。

- ・飲み屋文化、夜の社交文化
- ・ローアート（大衆）の芸術文化（壁画等のアート、音楽、映画、演劇、写真など）
- ・食文化（がんこ・喜八洲・ねぎ焼やまもとなどの店舗発祥、様々な種類の料理、老舗）
- ・祭り、イベント

クリエイティブ（**Creative**）が集まるまち

クリエイティブな人達が集まり、クリエイティブなモノ・コトが生まれ、クリエイティブな店舗等が増えていくまち

チャレンジ（**Challenge**）できるまち

新たなビジネスや商売、文化・趣味的活動など、気軽に何かを始めるチャレンジができる仕組、雰囲気、受容性が高いまち

コミュニティ（**Community**）が育ち繋がるまち

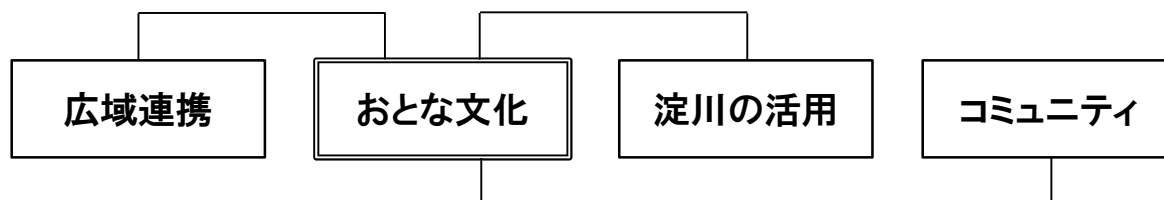
町会等の地縁型コミュニティに加えて、同じ目的等を持ったテーマ型のコミュニティが生まれ集まり、それらが育ち繋がるまち

様々な人・モノ・情報などがクロス（**Cross**）するまち

大阪・神戸・京都そして空港や新大阪を結ぶ交通結節点であると同時に、様々な人・モノ・情報などがクロスして、新しい何かが生まれるまち

＝ 具体的な展開の可能性 ＝

おとな文化の具体的なまちへの展開にあたり、前述の4つのキーワードの残り3つ「広域連携」「淀川の活用」「コミュニティ」とのクロスにより生み出される今後の取組の可能性について考察する。



【可能性が考えられる取組・展開などの提案】

おとな文化 × 広域連携	A	A1 広域への十三のPR・キャンペーンの実施 ○神戸・京都などの各地における十三のPRとキャンペーンの実施 ○十三の駅を通過している人の立ち寄り促進
		A2 3都市連携の強化 ○3都市連携のイベントの実施 ○3都市の大学連携
		A3 関西空港・新大阪との直結を意識した連携やコンテンツ等の創出 ○広域結節機能を活かした各地とのコラボによる新たな価値・文化の創出 ○空港のトランジットを意識したコンテンツの創出
		A4 隣接地や市内他地域との連携による相互の魅力向上 ○西中島地域 ○西淀川地域 ○中津地域 ○新今宮地域
		A5 新たなモビリティやDXの活用 ○新たなモビリティの導入による移動の活性化 ○無料Wi-Fiエリアの設定
おとな文化 × 淀川の活用	B	B1 淀川の眺望や大空間を活かした魅力向上 ○ビュースポットの整備と光のコントロール ○川からの景色が楽しめる遊覧船 ○淀川の大空間を活かしたデジタルイベントや水上小劇場、水上カフェの実施 ○ドローン等の新技術の開発と活用
		B2 舟運の活用
		B3 アウトドアレジャーの充実
		B4 自然学習の充実と環境保全の促進
おとな文化 × コミュニティ	C	C1 地域主体で作る将来ビジョンの作成と共有・発信
		C2 情報発信によるイメージアップ
		C3 まちぐるみ××の取組による魅力向上 ○大学・ゼミ ○美術館・博物館 ○ホテル・旅館 ○文化醸成のエコシステム ○景観づくり ○子育て ○実験場・ラボ
		C4 その他のコミュニティの連携強化
		C5 新たなデジタル技術の活用 ○新たな場とコミュニティによる魅力の形成 ○まちづくりに必要な資金の調達

A 「おとな文化」×「広域連携」

十三は、阪急神戸線、京都線を通じて、関西を代表する3都市（大阪市、神戸市、京都市）の中心地と結ばれた交通結節点である。また、今後の鉄道新線の整備により、ミナミエリアだけでなく、関西空港、新大阪という広域交通ハブ拠点とも直結する計画となっており、広域を結ぶ結節点としてのポテンシャルは益々高まるものと期待されている。

それぞれ異なる特性・文化を持つ大阪市、神戸市、京都市のハブとして、人の移動と交流はもちろん、文化や観光などの情報収集や体験が可能なインフォメーションハブ拠点を整備し、十三を核に各方面へ誘う機能整備も考えられる。

十三が物理的な三都のハブであることの認識を高めるために、大人の文化祭のようなイベントを十三で開催し、定期化することでイメージの定着と文化の融合・発展を図る。

【現在進められている事業・取組など】

○なにわ筋連絡線（なにわ筋新線～十三）、新大阪連絡線（十三～新大阪）の整備

【可能性が考えられる取組・展開など】

A1 広域への十三のPR・キャンペーンの実施

○神戸・京都などの各地における十三のPRとキャンペーンの実施

鉄道駅などを中心に、十三の魅力のPRを実施することで、各方面からの誘客を促す。例えば、十三に来ればどんな料理でも食べられることを活かして、「とりあえず、十三、行こう。あなたの食べたいがある」などキャンペーンを展開する。

○十三の駅を通過している人の立ち寄り促進

十三の駅を通過（乗換え含む）している多くの人に街へ出してもらうためのイベントや仕組みを構築する。例えば、「十三 降りホーダイ」と題して、途中下車しても次の初乗り料金が不要になるようなイベントを実施して、駅から街へ誘い出す。可能であれば、降りホーダイの常態化も検討する。

A2 3都市連携の強化

3都市（大阪市、神戸市、京都市）と鉄道で直結し、往来がしやすい利点を活かして、連携の取組を強化する。

○3都市連携のイベントの実施

音楽やアートなどの文化において、メジャーではない、マイナー又はマニアックなジャンルやテーマにおいて、3都市で活動するアーティストを十三に集めてイベント等を実施する。

○3都市の大学連携

3都市の大学が連携し、十三をフィールドとして共同研究や合同のフィールドワーク、学生交流などを行い、知見や結果を地域に還元する。

A 3 関西空港・新大阪との直結を意識した連携やコンテンツ等の創出

○広域結節機能を活かした各地とのコラボによる新たな価値・文化の創出

今後、関西空港や新大阪都直結する利点を活かし、海外（アジアの国々など）、新幹線沿線都市との観光・文化の連携や交流により、新たな価値や文化を創出する。

○空港のトランジットを意識したコンテンツの創出

主に関西空港利用者のトランジットなどにおける時間調整や立ち寄りにおいて、十三地域に来てもらうまたは宿泊してもらうようなコンテンツを創出する。

A 4 隣接地や市内他地域との連携による相互の魅力向上

広域ばかりではなく、隣接する地域や市内でテーマ性が合う地域などとも連携・交流を図り、それぞれの地域が相互に影響を及ぼしながら発展していくことをめざす。

<連携候補地>

西中島 地域	○ビジネスやベンチャー企業に重点を置いた西中島と文化・カルチャーに重点を置いた十三が連携（例えば…にしなかわレーと十三ヴィレッジのようなイメージ）することで、新しいモノ・コト・価値を生み出し、それぞれの地域の更なる魅力向上を図ることが可能になる。
西淀川 地域	○西淀川地域、十三地域ともに、地域を巻き込んだアートイベントをそれぞれ開催しているため、連携することで相乗効果が生まれ、一体でアートのまちとしてのイメージアップを図ることが可能になる。また、工業との連携や工場跡地等の有効活用を図る点でも連携・協力していくことは重要である。
中津 地域	○十三とは違った下町・レトロ感があり、ローカルチャーやものづくり、スタートアップなどのクリエイティブな活動などが盛んなため、淀川の対岸同士で連携することで、更なる魅力向上を図ることが可能になる。
新今宮 地域	○十三と新今宮で、それぞれ違ったタイプの下町風情・飲み屋街・ディープな大阪であるため、連携して相互に来訪してもらうことで、面白い観光・文化の魅力を提供することが可能になる。

A 5 新たなモビリティやDXの活用

○新たなモビリティの導入による移動の活性化

十三駅から周辺地域へ便利に楽しく移動できるため新たなモビリティの導入を図る。また、淀川の大空間を活かし、空飛ぶクルマの導入可能性も検討する。

新たなモビリティの導入にあたっては、十三に集うクリエイティブな人達でデザインした十三オリジナルデザインを採用することで、乗りたくなるような、まちのシンボルになるようなモビリティをめざす。



シェアサイクル



グリーンスローモビリティ



電動パーソナルビークル

○無料Wi-Fiエリアの設定

どこにいても快適に通信接続できる環境の整備・実現により、来街者の地域魅力の向上とビジネスや文化等の情報の送受信環境の充実を図る。

B 「おとな文化」×「淀川活用」

2025年に開催される大阪・関西万博を見据え、万博会場への移動をはじめとする淀川を活かした舟運が計画されており、十三における船着き場整備、淀川大堰への閘門設置整備が進められているところである。

淀川の眺望を活かすための場の整備やイベント、河川敷や水面を活用した様々なアクティビティ、自然の保全や活用など、都心のすぐ近くで、通常では体験できないような大人の趣味・レジャー的な活動のポテンシャルが非常に高い場所であるため、十三のイメージを変えるほどの有力な魅力としての活用が望まれる。

ただし、貴重な生物の宝庫であるため、自然観察会などによる自然保護の意識醸成を図りながら、自然破壊につながらないような、バランスの取れた整備・活用を進めて行く必要がある。

【現在進められている事業・取組など】

- 十三船着場及び淀川大堰閘門の整備
- 淀川河川敷及び堤防部分の利活用整備
- 河川敷を活用したイベント（マルシェ、アーバンキャンプなど）

【可能性が考えられる取組・展開など】

B 1 淀川の眺望や大空間を活かした魅力向上

○ビュースポットの整備と光のコントロール

対岸の梅田の高層ビル群の美しい景色を眺望できる、また眺望を楽しみながら飲食ができ

るようなスポットを堤防や沿川に整備・誘致する。その際に、梅田側の夜景が映えるように、十三側における光のコントロールの配慮が必要である。

- ・堤防上への階段状の回覧席や飲食施設の整備
- ・淀川沿川へのレストラン・バー等の店舗誘致 など



十三から梅田方面を見る美しい夜景

○川からの景色が楽しめる遊覧船

十三の船着場から遊覧船を運行し、川の上から景色を楽しめるコンテンツを提供する。屋形船やレストラン船のように景色を楽しみながら、昼間は料理、夜は酒ありの飲食を提供することも考えられる。十三の店舗や淀川の漁業と連携し、名物料理や淀川産の食材を使ったメニューなどが出せれば、より地域性を活かしたコンテンツとなる。

(※淀川八珍：天然鰻、鯊(ハゼ)、九條しじみ、ボラ唐墨、稚鮎、身うるか、ボラの稚魚の江鮎、キビレ鯛)



大川のレストラン船の例

○淀川の大空間を活かしたデジタルイベントや水上小劇場、水上カフェの実施

淀川花火大会に加えて、淀川の大空間を活かしたデジタルな光と映像のイベントの実施や、水上を舞台として活用した演劇、水上カフェなどによる魅力向上を図る。

○ドローン等の新技術の開発と活用

淀川の大空間を活かし、ドローンの発着場や練習拠点、レースや光の演出等のイベント会場として活用する。また、新たな機種や使い方などの開発にも協力する。十三地域でも課題となっている浸水等に対する防災の面で、防災訓練や災害時の活用方法の開発や訓練等にも使用し、まちの課題解消との連携をめざす。

B 2 舟運の活用

新設される船着場を活用し、各方面への舟運を実現する。また、需要等を調査。検討した上で、可能であれば自由度の高い水上タクシーなども検討する。

鉄道との乗り継ぎ環境を良好にするために、十三駅と淀川を結ぶアクセスルートにおいて、快適性や楽しさの確保をめざした整備が必要である。（道路整備と沿道への店舗立地誘導など）

- ・下流方面：夢洲、U S J、天保山
- ・上流方面：枚方、京都、大川を經由：大阪城、中之島、道頓堀
- ・対岸：中津

B 3 アウトドアレジャーの充実

都心近くでありながら気軽に自然や大空間、美しい眺望を楽しめるキャンプやグランピングなどの充実、サップやボート・カヌーなどの水面を活用したアクティビティの充実を図ることが必要である。

B 4 自然学習の充実と環境保全の促進

人工的な整備や利活用だけでなく、貴重な淀川の生態系や自然環境の保全が重要であるため、その理解を深めるためにも、自然学習の充実が必要であり、そのための機会増加や施設（トイレ、研修室）の整備が必要である。

C 「おとな文化」×「コミュニティ」

十三は、多様な人が行きかい、多様なコミュニティが存在している。これまでは地域まちづくりの担い手として、町会や地域活動協議会のような住民による地縁型のコミュニティが中心となってきたが、組織を構成するメンバーの減少や高齢化が進み、弱体化してきている。

一方で、SNSの普及などにより、同じ趣味や目的を持った人同士が繋がりやすい社会となり、同じ目的を持ったテーマ型のコミュニティが形成しやすくなっている。

今後は、文化の創出・発展が進み、まちの活性化、イメージアップをめざすために、居住地にとらわれず、十三で何かをやっている、始めたいなど、十三に興味を持つ人達によるテーマ型コミュニティを活かし、それぞれ連携や、地縁型コミュニティとの連携が進むような機会・場・仕組づくりを進めて行くことが必要である。

【現在進められている事業・取組など】

○淀壁プロジェクト、十三ええとこ音楽祭

○十三アートフェス、十三+（プラス）、十三×（クロス）、ワイガヤ会議 など

【可能性が考えられる取組・展開など】

C 1 地域主体で作る将来ビジョンの作成と共有・発信

行政計画としての将来ビジョンではなく、地域住民や地域に関わりや興味がある人たちによる夢を描いたような将来ビジョンを作成し、十三全体で共有するとともに、広く発信していく。

これにより、民間や個人がビジョンの内容を自発的に実践を始めたり、バラバラに行われるイベント等でも同じ方向性を向くことで、ビジョンの実現が促進されるなどの効果がある。

まずは、ビジョンづくりのワークショップを早期に始めることが望まれる。

C 2 情報発信によるイメージアップ

十三の日常や暮らしなどの魅力を発掘し、写真で伝える小冊子の発行や、SNS等を活かした情報発信を行うことで、イメージアップと誘客を図る。

気軽に参加・投稿できるようなフォトコンテストなどを始めることも考えられる。

C 3 まちぐるみ××の取組による魅力向上

コレクティブタウンのようにまちの様々な地域資源を活用して、まち全体で学びの場や美術館・ホテルなどの様々な機能や文化を提供し、醸成していくことで、新たな価値を創出する。都市機能や文化を提供する側と享受する側のどちらにも地域コミュニティやテーマ型コミュニティが関わることで、人やコミュニティの連携や成長に繋げる。

これらを進めて行く中で、公園・道路等の公共空間の活用、地主と借手手をマッチングできる不動産の仕組みや、古い木造住宅やビル、ラブホテルなどのリノベーションにも繋げていく。

＜まちぐるみで実施することが望ましい取組の例＞

大学、ゼミ	○まち全体で誰もが仕事・趣味・得意分野等のテーマで先生になれ、誰もが受講でき、まちなか・様々な施設・店舗・企業など、どこでも教室にできる、地域密着型の学びの仕組み。
美術館 博物館	○ウォールアートなどの屋外の絵画や彫刻などをはじめ、周辺のギャラリー、店先等に飾られたアート、見学可能なお店や企業・工場などを一まとめにして、地域全体を美術館・博物館に見立てて回遊を促進
ホテル 旅館	○まち全体をホテル・旅館に見立てて宿泊に付随する各機能（飲食・銭湯等）をまちを巡りながら楽しんで過ごしてもらう仕組み。
文化醸成の エコシステム	○アーティストの発表の場だけでなく、居住、作品の制作、交流、育成ができる場を、空き家や空き工場などの地域資源を活用して用意し、まちぐるみで文化醸成の好循環のエコシステムの形成をめざす。
景観づくり	○ちょっとしたことでできる景観改善の具体的な方法を示し、まち全体で、景観の改善に取り組む。

子育て	○人間性が育つ情操教育ができるまちとして、子どもを地域で育てる雰囲気や具体的な仕組みを形成し、子育て世代の流出抑制に繋げる。 ○子育て世代の親が楽しむ、癒される場やコンテンツを創出する。
実験場 ラボ	○淀川の河川敷やまちなかを、新技術の開発・実装の実験場として位置づけ、新しい社会実験や開発研究をまち全体で受け入れ、支援する。

C 4 その他のコミュニティの連携強化

モノづくりに関わる工業系の団体や地域の学校などのコミュニティとの連携を強化し、工場が持つ技術等の活用や、防災や地域活動等における学生との連携など、地域課題の解決や地域の魅力向上に繋がる方策等を模索しながら、まちづくりへの貢献を進める。

中でも北野高校は府内トップの進学校であり、各界で活躍するOBも多いため、OBも含めた連携・交流が望まれると同時に、現役生に対する十三への愛着醸成が必要となる。

C 5 新たなデジタル技術の活用

○新たな場とコミュニティによる魅力の形成

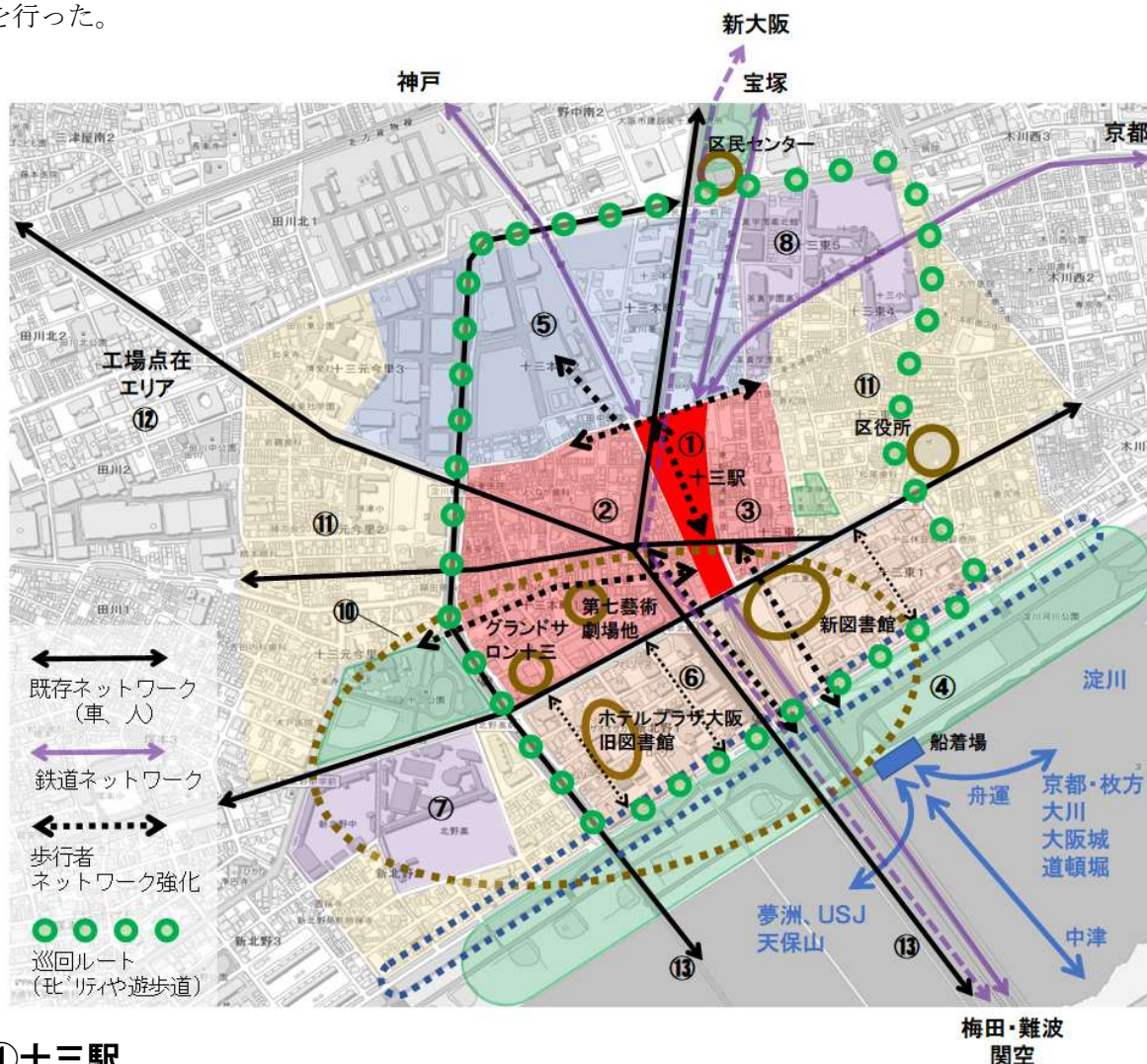
メタバースを活用して、デジタル十三の空間をつくり、それを活かして新たなコミュニティやチャレンジを生むと同時に、バーチャルな世界とリアルな十三の世界との連携・融合や相乗効果を生む方法を探る。

○まちづくりに必要な資金の調達

クラウドファンディング、アプリなどを活用した電子マネーや地域通貨、B I D制度など、地域的なコミュニティからの資金調達や、テーマ的なコミュニティからの資金調達があり、目的に応じて新たなことへの挑戦や活動の継続が実現しやすくなるような仕組みの構築が必要である。

3-3 エリア・ゾーン戦略

それぞれのエリアの特性に応じて、前述のソフト面での方向性を考慮し、将来の方向性の整理を行った。



①十三駅

多くの乗降客・乗換客を擁する割に、古くて手狭な状況であり、改札も南側の東西にあるだけとなっている。なにわ筋連絡線、新大阪連絡線の整備に合わせて、駅のリニューアルが望まれる。リニューアルにあたっては、利用者が多い交通結節点の駅として相応しい駅舎やデザイン、北側への改札設置や、地下または橋上を介した各方面への歩行者動線の改善、バリアフリーの強化などが望まれる。

現在の駅前を下町繁華街的な雑然とした雰囲気であるが、淀川への誘客や今後注力していく文化面のPRなどにおいて、駅前は重要であり、駅前でそれらを感じることができ、その方面へ誘うことができるような雰囲気作りが必要である。

②駅西繁華街エリア

飲食店や物販店、その他風俗店などの商業系施設が密集して立地する、現在の十三のイメージを形成しているエリアである。下町情緒の雰囲気を残しつつ、空き店舗のリノベーションや、クリエイティブで特徴的な店舗が多く立地するまちへとバージョンアップを図るとともに、防災面での安全性を高める必要がある。

③ 駅東繁華街エリア

主に飲食店が密集して立地する、現在の十三のイメージを形成しているエリアである。下町情緒のまちの雰囲気を残しつつ、空き店舗のリノベーションや、クリエイティブで特徴的な店舗が多く立地するまちへとバージョンアップを図るとともに、防災面での安全性を高める必要がある。

④ 淀川河川敷エリア

対岸の梅田を眺める抜群の眺望と河川敷及び水上の広々とした大空間が最大の魅力である。自然保護に配慮しつつ、前述した様々なソフト面及びハード面の取組みの実現に向けて、十三のイメージアップを図る、シンボルとしての整備・利活用が必要である。

- 淀川からの眺望を活かせるビュースポットを河川敷や堤防、沿川建物などに増やしていく。
- 淀川からの眺望や河川敷の空間などを有効に活用するための整備・取組と、貴重な自然を保護するための整備・取組を積極的に進める。
- 文化・学習・スポーツ・レジャーの拠点として、大人だけでなく子供たちや家族連れが自由に楽しめるような河川敷の整備・活用と、水上アクティビティの充実を図る。
- 舟運を活かし、下流域の夢洲・U S J・天保山、上流域の枚方・京都、大川を介して大阪城や中之島、道頓堀など、そして対岸の中津エリアと結び、鉄道と船の交通結節点を形成する。
- 水上からの景色が楽しめる遊覧船を運行、地元の店舗や淀川の食材を活かした船上での飲食を可能にする。
- 鉄道と船の交通結節点として、また駅やまちから人を淀川に向かわせるために、十三駅から淀川へのアクセス道路を、歩きやすく楽しい空間として改善することが望まれる。
- 貴重な生物などの自然保護の観点から、自然学習の充実に必要な設備・施設を整える。
- 河川空間の利活用などを一括で管理・運営できるようなエリアマネジメント体制を構築する。

⑤ 駅北側工業地エリア

工場の跡地などを活用して、新たな都市開発などを進めて行く。十三エリア全体にみどりが少ないため、整備の用途に関わらず、あらかじめ緑を増やすようなルールを定めた上で整備を進めることが望まれる。なお、開発にあたっては、十三駅からのアクセスが弱いため、道路等のインフラ整備によるアクセス性の改善が必要である。

開発の方向性として、例えば、大学のサテライトの誘致や文化関連施設の整備など考えられる。また、オフィスとしてエンタメ系の企業を誘致し、まちの文化的な取組等に協力してもらうことも考えられる。

⑥ リバーサイドエリア

リバーサイドの好立地を活かし、淀川の眺望や利活用の恩恵を受けたライフスタイルを売りにした中高層住宅地としてイメージアップを図ることが必要である。一部にラブホテルが立地しているが、減少傾向にあるため、用途転換（リノベーション）を進める、または屋内の異空間を貴重な資源と捉え、これまでとは違う利用の仕方や活用法を検討することで、新たな文化を生み出すことも考えられる。

⑦学校エリア(北野高校、新北野中学)

⑧学校エリア(英真学園、十三中学、十三小学校)

高校・中学と地域活動の連携を強化し、生徒が地域活動やまちづくりに協力するとともに、学校施設を文化拠点の一つとして、地域住民の学びの場等として活用されることが望まれる。

特に北野高校は府内トップの進学校であることから、広く社会の各界で活躍するOBも含めた連携ができると様々な可能性が広がることにも繋がる。

⑨公共施設の活用・リニューアル

区役所を文化拠点の一つとして活用する。また、古くなった各公共施設のリニューアルによる活用が必要である。

○区民センターや現図書館跡のリニューアルと活用

○公園（十三公園、十三東公園、野中南公園）のリニューアルと文化拠点としての活用

⑩文化創出・発信エリア

十三駅を東西に貫くアーケードのある商店街から淀川までの一帯は、各種文化の拠点となる施設や空間の集積が見られることから、文化創出・発信エリアとして位置づけ、それらを感じることができるようなまちづくりが望まれる。特に新図書館のインパクトは大きく、様々な交流が生まれる機能や小さな子どもたちが使えるような機能の充実が望まれる。

○エリア内には、新図書館、第七藝術劇場他、グランドサロン十三、十三公園、淀川河川公園、北野高校、ホテルプラザ大阪、旧図書館跡が集積

⑪戸建て住宅エリア

十三駅の東西の商業地の外側に広がる居住地は、戸建て住宅が中心で、一部に密集住宅地も残っているため、空き家をリノベーションしてクリエイティブなアーティストや起業家を誘致するとともに、良好な住宅への更新を図ることでまちの防災性能を向上し、魅力ある住宅地の形成をめざすことが望まれる。

⑫工場点在エリア

十三バイパスの北西部には、中小の町工場が点在しており、モノづくりの技術や新たなテクノロジーを活かしたまちづくりの課題解決及び文化との連携・融合の可能性を探るとともに、技術・製品のPRや工場見学の実施など、モノづくりの活性化に寄与する取組が望まれる。

また、空き工場をクリエイティブなアーティストのアトリエなどに活用するなど、芸術文化を生み出すエリアとしての役割も望まれる。

⑬国道176号と十三バイパス

現在、十三エリアを貫く自動車交通の大動脈と言える国道176号と十三バイパスにおいては、淀川左岸線の開通や、御堂筋をはじめとする市内幹線道路の再編、将来の自動車交通量の減少を見据え、長期的に見て、道路交通のあり方の見直しが必要である。車線の削減が可能な場合、歩行者空間の拡大や、自転車その他のモビリティの通行路としての活用等が考えられる。

また、十三駅周辺を周回し、淀川河川敷とまちの各エリアを繋ぐ遊歩道のようなルート整備やモビリティがあると望ましい。

3-4 アクションプラン

十三周辺においては、既存の文化的要素に加えて、元区役所跡地の再開発や淀川の整備が進んでおり、さらに様々なイベントや取組の萌芽が見られ、盛り上がりを見せようとしている。

プレイス・ブランディングを進めて行くためには、十三の意味や魅力を見出し、それらを内外に発信・伝え、独自のコンテンツが生み出され、イメージが広がっていくことが重要である。

まずは、既存の魅力資源や取組、直近で整備されるハード施設などを活用して、魅力や人材の発掘及び発信など、できることから取り組むことが重要である。

今後の取組み課題として、以下の3点が重要である。

＝ 将来ビジョンの作成と共有 ＝

めざす方向として将来ビジョンを作成して共有化し、アイディアレベルでも具体的な取組などを示しておくことが、様々な活動の誘発に有効となるため、地域住民や活動団体などを巻き込んで地域主体でつくる将来ビジョンの作成を進めることが望ましい。

＝ 可能な取組から実行 ＝

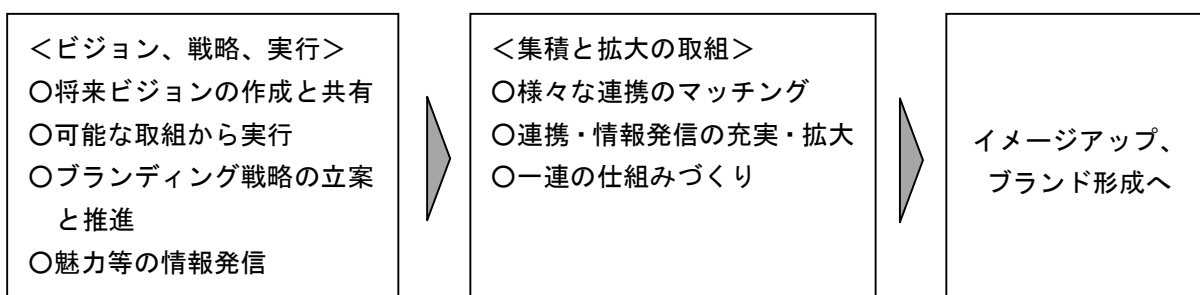
淀壁をはじめとするまちぐるみで取り組む美術館や、市民大学的な取組みなどが既に動き始めている。また、船着場や淀川河川敷の整備が進められており、イベントや利活用が進むと思われる。さらに、新図書館では新たな交流機会の創出が期待されている。

これらの動きをさらに盛り上げながら、十三地域の個人や団体組織・企業などの各プレイヤーが、やりたいこと・できることに取り組んでいくことが重要である。

また、これらの動きや十三が持つ様々な魅力について、写真・動画等を使ったSNSを活用するなど、積極的に情報発信をしていくことが重要である。

＝ 戦略を立ててブランディングを進めていく ＝

様々な整備・開発や盛り上がりを見せ始めた取組があるものの、そのままではイメージアップや新たなブランド形成にまで及ぶのは難しいと考えられる。そこで、十三地域におけるプレイス・ブランディングの手法のさらなる調査・研究を進め、ブランディングに向けた戦略を立てて、意図的に交流機会を生み出し、人と人、コミュニティとコミュニティ、人と場所（物件）などのマッチングを実現し、情報を発信していくなど、戦略的に取り組むことが重要である。



第4章 イベントの開催

十三×イベント概要

名称	十三 X (JUSO CROSS)
開催日	2022 年 3 月 12 日 10 時 15 分
場所	グランドサロン十三
形式	オンライン (zoom) による有識者とのトークイベント
目的	●十三に興味を持ってもらい、まちづくりを一緒に行っていく土台作り 十三をアートで盛り上げる (PROJECT・十三×のキックオフイベントの位置づけ) ●地元、アートやまちづくりに興味がある方にご参加いただき、十三のまちでどのような取組があるのかを知っていただき、これからについて一緒に考える機会を設ける ●十三エリアに興味がある人、まちづくりに関わっている方等に、最新の十三の情報、これからのまちづくりにつながる話題提供 ●十三の知名度アップ
対象	地元住民、アート、まちづくりに興味がある方 (オンライン定員数 450 名)
応募数	136 件
視聴者数	A M : 83 件 P M : 75 件

◆プログラム

午 前	10:15-午前受付開始	午 後	12:45-午後受付開始
	10:30-会場紹介		13:00-ゲストの活動紹介
	10:40-十三とプレイス・ブランディング		13:25-トークセッション
	11:10-十三の景観力		14:20-執事応答&クロストーク
	11:40-質疑応答&クロストーク		14:55-終了

◆ゲスト(登壇者)

<午前の部>

関西大学総合情報学部教授 徳山 美津恵 先生

京都市立芸術大学美術学部デザイン科教授 藤本 英子 先生

<午後の部>

松田 昭男 様 第七芸術劇場及び淀川文化創造館代表第七劇場・シアターセブン代表

佐々木 美穂 様 よどがわ河川敷フェスティバル実行委員

牟田 麻希 様 NPO 法人淀川アートネット代表・cafe yutte

宮田 泰三 様 グランドサロン十三経営者

BAKIBAKI 様 十三光スタジオ・淀壁

◆イベントのようす



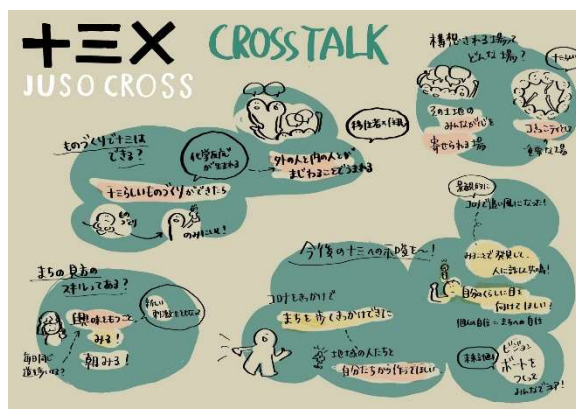
午前の部のようす



午後の部のようす

◆グラフィックレコーディング

<午前の部>



<午後の部>

